



笑顔と夢を
未来につなぐまち



広報おけと
KETO

2024 **12**



11/3 町民文化祭



ピアノトリオ



あこーる



ギターサークル



置戸山神太鼓愛好会(キッズ太鼓)

11/9 置戸小学校学習発表会



5年生劇「WILD WEST」



6年生劇「同窓会? 将来の自分」

ひとまち おけと

10/26 こどもセンターどんぐり発表会



歌と手遊びを披露するこあら組(3歳児)



火の用心。どんぐりで消防演習

11月1日、こどもセンターどんぐりのぞう組による消防演習が園グラウンドで行われました。保護者などが見守るなか、防火衣やヘルメットを身につけた18人の園児たちは、行進や的をめがけての放水訓練を実施。最後に全員で「マッチ、ライターの火遊びは絶対にしません。火の用心をよろしくお願いします」と誓いのことばを元気よく唱和しました。



おけと大学、置戸高校生と交流

11月5日、おけと大学の学生21人が置戸高校を訪問し、生徒との交流会が行われました。3つのグループに分かれた参加者は、生徒が企画した手浴、ポッチャ・モルック、手遊びを体験しました。3つのプログラムは各学年が担当し、参加者たちは生徒とコミュニケーションを取りながら交流を深め、どの体験も笑顔があふれていました。



置戸消防団・置戸支署合同訓練

置戸消防団と置戸支署の合同火災出動訓練が、南ヶ丘公園管理棟周辺で行われました。消防団員と職員合わせて74人は、町内各所に待機した消防車両の赤色灯を点灯させて一般走行で訓練場所に集結。火元の管理棟や山林に延焼したことを想定した放水訓練を行いました。これからの冬の季節、ストーブなど火の元にはくれぐれも注意しましょう。



置戸中学校1年生、森林づくりを学ぶ

置戸町林業グループ主催の植樹体験が行われ、置戸中学校1年生15人が参加しました。生徒は植樹方法の説明を受けた後、土の中にある石などに悪戦苦闘しながら鍬をふるい、林業グループなどのスタッフと一緒に約1000本のカラマツの苗木を植えました。植樹後には薬剤散布用ドローンの活用方法について説明を受けるなど、林業体験を通して森林の役割や林業の大切さを学びました。

置戸町の小中一貫教育の取り組み



中学1年生と一緒に英語を学ぶ小学6年生

小中一貫教育とは

小学校と中学校では、学習面や生活面の指導体制に違いがあります。小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活に変わること、中1ギャップ[※]が生じ、中学校での生活につまずくことがあります。そのため、小学校から中学校への進学を円滑にする必要があります。

置戸町では小学校・中学校の9年間を連続した期間ととらえ、一貫性のある学習指導・生徒指導（小中一貫教育）を令和2年度より進めてきました。

本年は児童生徒の交流の機会を増やすため、合同行事開催の検討や9年間で目指す子どもの姿（資質・能力）をまとめた「置戸町9年間の学び（仮称）」の完成を目指しています。

※中1ギャップとは…

児童が小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にうまく対応できないこと。

学習について

小学校高学年の授業では、中学校英語教員による乗り入れ授業を週1回、英語以外の出前授業を年1回実施しています。また、小学6年生が中学校を訪問し、中学校教員による専門的な授業を受けることで、子どもたちが抵抗なく小学校から中学校の授業へ移行できることを期待しています。さらには、ふるさと教育を実施するなど、ふるさとに愛着をもってもらえるような授業も実施しています。

生活について

外部講師を招いたスマートフォンの使用に対する安全教室の実施や、生徒指導に関する情報を小学校・中学校の教職員が共有することにより、不登校やいじめ問題に対して、効果的な対応が期待できます。

また、授業や家庭学習における態度や挨拶などの目標をまとめた「学習スタンダード」と、日々の生活習慣や決まりなどの目標をまとめた「生活スタンダード」の見直しを行い、小中学校の9年間を通した学習態度と生活スタイルを子どもたちに示し、一貫性をもった指導を実施しています。このことにより、中学校に進学した際の不安や戸惑いの解消に努めています。

置戸中学校体験学習を紹介します

10月15日に行われた中学校体験学習では、小学6年生18人が中学校を訪問し、音楽と英語の授業や学校祭準備の様子を見学しました。

音楽の授業では、全校生徒と『夏の日の贈り物』という歌に挑戦。男女各2パートに分かれて練習し、最後に全員で合唱しました。練習では生徒が児童に教える場面も見られました。

中学1年生との英語の授業では、動物や野菜の名前、色の種類を児童が挙げて生徒が英語で書くという問題をチームに分かれて正解数を競い合いました。また、児童が夏休みの思い出を英語で発表し、生徒が質問をする内容もあり、交流を図りながら中学校の授業を体験しました。



中学校体験学習を振り返って ～6年生の感想～

- ・音楽の授業では先生が歌ってくれてわかりやすかった
- ・他の学年と協力して歌うことできれいな歌ができあがるのがわかった
- ・英語の授業で動物などの名前をあまり書けなかったのもっと勉強しようと思った
- ・学校祭の準備ではみんなで協力して良いものを作ろうとしているのがわかった
- ・生徒たちで学校祭の準備をされていてすごいと思った
- ・学校祭の準備が楽しそう
- ・給食時間が短いので早く準備をして食べないと間に合わなくなるから大変そう
- ・勉強が今より難しくなるので、復習をしっかりしようと思った
- ・授業時間が長いから大変
- ・自分たちでやるが多かった

今後に向けて

全国的に不登校児童生徒数は年々増加しています。中1ギャップも要因の一つと考えられ、不登校を未然に防ぐ取り組みが求められます。

小中一貫の取り組みは、小中の特性を尊重しつつ、評価と改善を図りながら内容の充実に努めています。また、学校運営協議会などで広く意見をいただき、地域全体で子どもたちを支え、見守っていただけるような体制を構築し、子どもたちが大きくなり進学や就職で社会に出た時に「やっぱりふるさとが一番」と思ってもらえるような教育環境の整備に取り組んでいきます。

■お問い合わせ 教育委員会学校教育課 (☎52-3316)

10月23日開催

気にかけてあうことから始まる まちづくり講演会



■橋本泰典氏プロフィール

社会福祉協議会、居宅介護支援事業所勤務を経て、2011年7月にCLCに入社。主に生活支援体制整備事業関連の業務を担当。北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県内の自治体に伺い、生活支援体制整備事業の実践に伴走。

特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）で地域支え合い推進プロジェクト参事として活躍する、橋本泰典氏を招き、「置戸で暮らさるる」をテーマに講演会が中央公民館で開かれ、町民など約30名が参加しました。

講演では、元気な時から地域でつながり、気にかけて合うことの大切さについて、置戸町内で実際に行われている集まりや、盆踊り大会、図書館の取り組み、置戸高校のボランティア活動などにも触れながらお話がありました。

また、地域福祉センターの職員より「一人の子どもを育てるためには一つの村が必要」という言葉を実感した置戸の盆踊り大会でのエピソードが紹介され、「高齢者は支えるだけではなく、地域を支えていく、若い世代に背中を見せていく役割がまだまだあります」と伝えていました。

講演後には、参加者が4グループに分かれ、普段の生活を振り返り、「気にかけてもらってうれ

しかったこと」などをテーマに話し合いが行われました。

今回の参加者には若い方々もあり、地域おこし協力隊からは「お年寄りの話を聞くのが好きで、置戸の昔話を聞きたい」という話があり、会場にいた方々からは「それならなんぼでも協力するよ!」という声がありました。

また、介護保険外サービスを始めた大友佳女さん（本町）からは、「介護保険では手の届かないことをお手伝いすることで地域の高齢者の力になりたい」という声や、オケクラフトの作り手さんからも、「置戸にとどまって頑張りたい」という声がありました。

参加者の皆さんの声

■昔の同僚たちと一緒にゆうゆに行った。悩み事や老後のこと等話をしていたら楽しくなってお風呂に入る時間をもったいなくなって風呂に入らずに帰ってきた。今日の話で図書館にも集まっていことが分かったので、次は図書館に集まってみようかなと思う。

■サークル活動、モルック、折り紙サークルとかいろんな活動に来て、できてもできなくてもそこに出てきて仲間で楽しくワイワイやっているその雰囲気がいい。そこに来て、今日も元気だねとか、楽しい中で確認できているっていうのがいい。

■気にかけることで、それが活力になっている部分がある。お礼などのやり取りで、また違う会話が生まれたりする。やっていて楽しい。

■近所の人とは付き合いが長いので、ちょっと億劫だなと思っていることもあるんだけど、そこもわかったうえで、ちょっと強く誘ってくれたら、案外出ていけて、行ってみたら楽しくてよかったなって思うことがすごくある。



▲グループワークで話し合う参加者

■町の方のいろいろな話が聞けて楽しかったです。地域のちょっとした支え合いが大切なこともとてもよくわかりました。置戸で暮らしきります！

■元気に楽しくお友達を増やして長生きしたいと思います。置戸で暮らしきる！

■またがんばれます。置戸町最高！

今回の講演会を企画した、地域福祉センター包括支援係の永井真由子主任にお話を伺いました。

置戸のために何かをやりたいという一人一人の皆さんの思いが繋がっていくといいですね。介護予防と孤立孤独予防から、社会参加、子どもから高校生・働き世代・子育て世代・高齢者などを含めた多世代交流、まちづくりと、それぞれバラバラに見えますが、実はつながっています。

一人一人が社会とのつながりを大切にすることは、回り回って介護予防につながり、元気で自分の得意なことで活躍する高齢者が増えると、まちが活気づきます。元気な高齢者の皆さんは、まだまだその背中を見せていくというお仕事があります。その背中を見ている、次世代の大人たち、子どもたちが置戸にはまだまだたくさんいます。

ますます寒い季節になり、出かけるのが億劫かもしれませんが、「あーさむい、よっこらしょ」と言いながら一歩外に出てみましょう。誰かが心配して見ているかもしれないので、昼間はとりあえずカーテンを開けてみましょう。気が向いたら、温まりに図書館や集いの場に行ってみましょう。勝山温泉ゆうゆに行ってお風呂に入るのもいいかもしれません。そのひとつひとつが介護予防、そしてまちづくりにつながると思います。

■お問い合わせ 地域福祉センター包括支援係 (☎52-3333)

ふるさとに思いを寄せて



札幌おけと会のつどい

札幌圏に在住する置戸町出身の方々などで組織された「札幌おけと会」（上原勇会長）の令和6年度総会・集いが10月19日、札幌市内のTKPガーデンシティで開催されました。

総会には会員のほか町からも深川町長や岩藤議長など9人が参加。総勢38人が集い、ふるさと談義に花を咲かせながら旧交を温めました。

5年ぶりに開催となった札幌おけと会の集い。開会前には後藤幸恵さんのフルート演奏が披露され、総会で上原会長は「5年分の交流を深めていただくとともに置戸町と札幌おけと会の発展をご祈念申し上げます」と挨拶。

続いて深川町長は、札幌おけと会の歴史に触れ「故郷を離れて札幌圏に就職した方々を励まそうという活動から札幌おけと会に発展しました。故郷のことをいつでも思っていただけ置戸でありたいと思います」と挨拶し、町の近況などを報告しました。

その後、事業報告や役員改選が行われ、上原勇会長が退任し、木村佳朗さんが新会長に就任しました。

続く懇親会は、神宮龍太郎置戸町自治連絡協議会会長の乾杯の音頭で始まり、各テーブルでは久しぶりに会う仲間の近況やふるさとの話題で親睦を深めました。また、オケクラフトなど町の特産品が当たる福引抽選会が行われ、終始和やかな雰囲気にも包まれていました。



▲挨拶をする上原会長



▲後藤幸恵さんの演奏



加入の呼びかけを

ご家族や友人などで札幌圏に転出された方に、ぜひ加入を呼びかけてください。

■お問い合わせ

置戸町ふるさと運動推進協議会事務局

(企画財政課地域情報係 ☎ 52-3312)

地域おこし協力隊（委託型） 受入事業者を募集します

【募集要件】

- ①町内に住所がある企業・個人事業者（飲食業、農業等形態は問いません）
 - ②協力隊任期（3年経過）後、引き続き従事者または事業継承者として働けること
 - ③町主催行事や地域貢献活動の参加に配慮できること
 - ④協力隊の募集から生活に関することの用意をすべて行うこと（住宅、車、社会保険等）
- ※募集事務については役場と協議のうえ決定
- ⑤月に一度、役場への委託料請求、活動報告事務を行うこと

※その他詳細は、個別にご説明します。

【受入事業者になったら】

- ・年額520万円（税込）の委託金を受け入れ事業者へお支払いしますので、人件費の負担なく（最大3年）働き手が確保できます。

【募集締切】

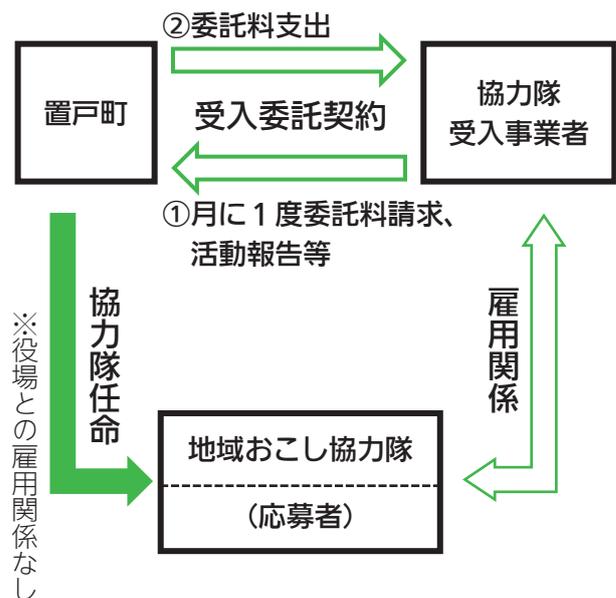
令和7年1月10日（金） 17時まで ※以降随時

【応募方法】

企画財政課企画係（☎52-3312）

担当：古川までお電話をお願いします。

委託型協力隊の受入事業者等の役割



公共施設等の年末年始休業日のお知らせ

役場・地域福祉センター・教育委員会

12月28日（土）～1月5日（日）

各施設の休館日

- 中央公民館・各地区公民館
12月30日（月）～1月6日（月）
- ファミリースポーツセンター
12月30日（月）～1月4日（土）
- げんき
12月28日（土）～1月5日（日）
- 図書館
12月29日（日）～1月4日（土）
- オケクラフトセンター森林工芸館
12月30日（月）～1月3日（金）

ごみ収集業務の休業

12月29日（日）～1月3日（金）

一般廃棄物最終処分場の休業

（粗大ごみの自己搬入受け入れ）
12月31日（火）～1月5日（日）
*許可証の交付は12月27日（金）まで

その他

婚姻届、死亡届出事務については、閉庁日に
関わらずお取り扱いします。

<町民生活課長（自宅）☎52-3923>

わが家の アイドル



安達

まなか
眞加ちゃん

● 4歳9カ月

● 中央

安達 霞さんのお子さん

救急救命士になりたい!

恥ずかしがり屋の眞加ちゃん。今年の春から置戸山神太鼓愛好会（キッズ太鼓）に入り練習を頑張っています。町民文化祭では上手に披露することができました。好きな食べ物は桃、ぶどう、バナナ。苦手な食べ物は卵料理。歌とダンスが大好きでK-POPアイドルに憧れていて、お家ではYouTubeを見ながら真似をして踊っているそうです。最近楽しかったことは、サッポロファクトリーのうんこミュージアムに行ったこと。将来の夢は、救急救命士になって救急車に乗りたいそうです。そんな眞加ちゃんのことをお母さんは「このままのびのびと元気に育ててほしいです」と、愛娘の成長を温かく見守っています。

今晚つくれる! 食改さんの かんたんレシピ



サケと豚肉の
むしもの丼

1人分699 kcal 食塩相当量2.8g

材料 (2人分)

ごはん (300g)、甘塩鮭 (1切れ)、豚ロース薄切り肉 (200g)、ネギ (2cm位)、A (酒小さじ2、しょう油大さじ1、片栗粉小さじ2)

作り方

- 鮭は皮と骨を抜いて、薄くそぎ切りにする。豚肉は5mm角切りにし、Aを加えてよくもみこむ。
- 耐熱皿に豚肉を入れて平らにならす。上に鮭を並べる。
- 蒸気が上がった蒸し器に②を入れて強火で6分程度蒸す。蒸しあがったら鮭を箸でほぐして豚肉とまぜる。
- 器にごはんを盛り③を蒸汁ごと等分に載せる。小口切りしたネギを散らしできあがり。

ワンポイント

- 蒸し器を使用せず、レンジ (600W 6分) でもできます。
- 上に焼きのりを散らすと、さらに美味しくなります。

まちづくり月記

置戸町長 深川 正美

ふるさとカレンダーに目をやると、朝日を浴びたフクロウがじっとこちらを見る写真が冬の到来を告げています。さて、昭和二十六年に創刊された「置戸タイムス」が休刊となるのが決まりました。先月の移動町長室でも「何とか継続できないのか」という声もあがり、町民はじめ多くの方にとって単に情報を伝えるという以上に、生活に溶け込んだ愛される地方紙であると再認識させられます。青年有志が「俺たちの手で町の発展を図る手立てとして」と郷土新聞が創刊されました。以来、その崇高な理念のもとで、七十三年もの長きにわたり毎週発行されたローカル新聞は誠に稀有であり、さらにタイムスの号外から「町政だより」「公民館だより」が派生し、昭和五十一年に現在の「広報おけと」発行に至りました。お知らせや課題・議論提供を行い、まちづくり・ひとつづくりに大きく貢献されたものであるとここに深く感謝を申し上げます。

この度の結論は経済的な問題だけではなく記者の高齢化等、如何ともしたい課題の中での判断であり、町としましても情報過疎にならないような広報手段の新たな取り組みを模索してまいります。長年発行を支えられた歴代の役員の方のご労苦に深甚なる敬意を表します。暑かった夏の記憶は朝晩の冷え込みで忘れる今日、うれしいことや悲しいこと、色々なことが思い出されます。町民一人ひとりに感謝申し上げます、皆様のご健勝にて新年をお迎えされますことをお祈りし、ペンを置きます。ありがとうございました。

置戸町ってどんな町？

健診結果、要介護者の有病状況などからみた置戸町

今月の担当

地域福祉センター次長
木根 里子

地域福祉センター健康推進係
(☎52-3333)

◎特定健診の結果からみる置戸町

- ・血糖値が高い人が多い町
→高血糖状態が続くと血管が傷つき、脳疾患や心疾患、腎不全を引き起こします。

- * 1 血糖（空腹時血糖、Hb A1cが高値）
- * 2 脂質（LDL・中性脂肪が高値、HDLが低値）
- * 3 全道の保険者数 183 中の順位

<令和5年度置戸町国保加入者の特定健診結果有所見率>

	置戸町	北海道	全道順位 *3
血糖 *1	2.5%	0.6%	4位
血压	8.7%	7.8%	57位
脂質 *2	2.9%	2.6%	73位
血糖+脂質	2.5%	0.9%	5位

【出典】国保データベース（KDB）

◎要介護者の有病状況からみる置戸町

- ・介護が必要になった人には糖尿病、心臓病、脳疾患を有する人が多い町
→認知症をきっかけに要介護認定を申請する人も多く、認知症のリスク要因の1つには糖尿病があります。

<要介護者の有病状況>

	置戸町	北海道
糖尿病	32.4%	24.7%
心臓病	79.1%	55.5%
脳疾患	60.4%	20.2%
筋・骨疾患	60.7%	50.3%
精神（認知症含む）	51.4%	34.8%

【出典】国保データベース（KDB）

◎死因からみる置戸町

- ・腎不全で死亡する人の割合が多い町
→置戸町の死因（2013～2022年累計）の第5位は腎不全です。「腎不全」は標準化死亡比*4が高く、このことは全国に比べ腎不全で死亡する人が有意に多いことを示しています。腎不全の主な要因は糖尿病と高血圧といわれています。

*4 北海道における主要死因の概要 11(2013～2022年)
発行：公益財団法人北海道健康づくり財団

置戸町の皆さんの健康には血糖値・糖尿病が大きく影響していることがわかります。
若いうちから血糖値をコントロールして、腎臓を守り健康寿命を延ばしましょう。

血糖改善には、無理なく続けられるよい食習慣と運動習慣
「無理なく」と「続けられる」が重要です。

【食習慣】

- ・野菜、きのこ、海藻など食物繊維を多くとる
目安は小鉢で1日5皿
- ・食べ方を工夫する。例えば「野菜から食べる」、
「1口30回よく噛んで食べる」

【運動習慣】

- ・今より10分多く体を動かす
- ・30分以上座り続けない



■お問い合わせ 地域福祉センター健康推進係（☎52-3333）

地域おこし協力隊活動日誌

＼あらためまして、林です／

地域おこし協力隊員 林 奈緒美

こんにちは、林です。広報おけとに登場するのは1年ぶりのようです。今回は学校図書館や本屋のことを書いていきます。

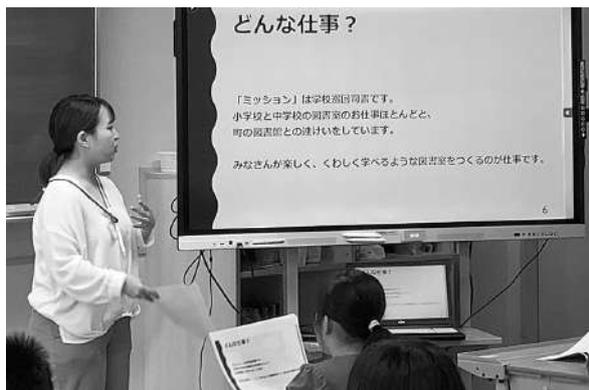
あらためて、私のミッションは「学校巡回司書」です。日々、学校図書館のためになるものはないかとアンテナを立てています。なかでも、新しい本のチェックは欠かせません。

最近の小中学生向けの本は様々な分野にわたっています。そして、大人が読んでも面白いものが多いのです。例えば、昨年8月に出版された『すごい！グラウンドの育て方』（金沢健児、Gakken）は、阪神甲子園球場のグラウンドキーパーをされている方が著者で、甲子園の芝や土が丸わかり。長くなってしまうのでこれ以上書けませんが、図書館にも所蔵があります。

ぜひ読んでみてください。

さて、本屋ですが5月から「公園本屋」という催しを始めました。場所は地域おこし協力隊事務所横のポケットパーク（フクロウ公園）です。それまで出店は町外が多かったのですが、やはり置戸でやりたい、今できることは何かと考え、公園で小さく始めてみることにしました。結果的に、訪れた方同士交流が生まれ、「ちょっと良い空間なのでは？」という場面も。今は寒いので休止中ですが、また暖かくなった頃にのんびり始めたいと思います。

日々温かく見守ってくださる方々に、あらためて感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いたします。



人事異動

11月1日付の置戸町職員の人事異動等をお知らせします。

■新採用



菅野 志麻さん

地域福祉センター
包括支援係主任

【出身は】小清水町
【趣味は】パン作り、手芸
【皆さんへ一言】町民の皆さんの思いを大切にしながら日々の業務に取り組みますので、よろしくお願いいたします。

喜びと悲しみ(敬称略)

■お悔やみ申し上げます

- 大高 米子 95歳 緑清園 10/1
- 大槻 節子 87歳 栄第一 10/1
- 池西 キ又 98歳 拓殖第二 10/25

人の動き

- 世帯数 1,362世帯 (+1世帯)
- 人 □ 2,556人 (-2人)
- 男1,180人 (-1人) 女1,376人 (-1人)

令和6年10月31日現在()内は9月末比

■今月号の表紙：11月9日、置戸小学校学習発表会(3年生)